

わかすげ



院内広報誌

H26.10.1(第20号)



巻頭言

副院長(外科)の小堀です。先日、マイケル・クライトンの遺作であるマイクロワールドという作品を読みました。100テスラのMRI(磁気共鳴画像装置)という超強力な磁界で人間やロボットを数センチの大きさに縮小した世界を書いたSFの物語です。実際にはMRIで物質を小さくすることは出来ませんが、ミクロの世界では生き残りをかけて昆虫やクモ、ダニ、真菌類や植物がいかに自然に適合し、進化しているのかが痛感されます。現実の世界で縮尺が変わるだけなのに、いかに地球上で人間が非力な存在なのか、思い知らされる話です。

さて、私が野辺地病院へ着任したのが、震災のあった年の5月なので丸3年が過ぎました。その頃野辺地病院は経営が悪化し、赤字再建団体に陥っていました。病院自体が生き残る(存続の)ために、三上院長はじめ職員が一丸となり(病院自体の外見はほとんどかわってはいませんが)種々の改革が行われました。

事業として始めたことでは医療型療養病棟および介護療養型老人保健施設の開設、亜急性病床の運用開始、地域医療連携室の開設、ケアマネージャーの常勤による居宅介護支援事業所の立ち上げ、訪問看護ステーションの開設、皮膚・排泄ケア認定看護師の充実等々。

医療機器関連では従来の紙カルテから電子カルテへの移行、CTC(CTによる大腸検査)の導入、透視機器(フラットパネル)の更新、画像強調内視鏡の導入、MRI(1.5テスラ)への更新、最新の超音波機器の追加等々。

病院の増改築関係では玄関ホールの改築(明るく広くなりました)、病棟の個室の増改築、内視鏡室・生理検査室・健診センターの改装・移動等々。また、公立野辺地病院のホームページの充実等多岐にわたっております。

おかげさまでこのような努力を積み重ねた結果、赤字は解消されつつあり、本年度をもって赤字再建団体より脱却出来そうな見込みとなりました。今後も外科、皮膚科、歯科、整形外科外来の改装・移転、玄関周りの改築、今年の12月には日本医療機能評価機構による病院機能評価を受ける予定です。

対象人口の減少・高齢化、医療報酬の改定や消費税の値上げなど前途は多難ではありますが、住民のみなさんに医療を安心して受けられるよう、今後も職員一同誠意努力する所存であります。

閑話休題、将来医療用マイクロロボットが開発され、ミクロの世界で癌なんかもそいつがちょちょつと切り取ってしまうようなものが開発されれば、外科医なんていらなくなってしまう時代が来るかもしれませんネ。



病院屋上からの眺め

【目次】

- ◆ 巻頭言 小堀副院長
- ◆ 平成25年度 検査・手術件数報告
- ◆ 医療安全より
- ◆ 外来診療日案内

平成25年度 検査・手術件数報告

昨年度の当院各科の主な検査・手術件数です。

- 内科 1,585件 (内視鏡検査)
- 外科 237件 (内、胆石症手術 27例) 平成25年1月～12月実績
- 整形外科 309件 (内、脊椎手術 72例)
- 眼科 136件 (内、白内障手術 127例)



「あなたと医療者は医療安全のパートナーです」

病気やけがを治すためには、患者さんやご家族の皆様のご協力が不可欠です。医療スタッフは安全・安心な医療を提供するために、日々努力をいたしておりますが、医療の現場にはさまざまなリスクがあるのも事実です。当院ではこうしたリスクをできるだけ防ぐために、安全対策に関して患者さんにご家族にもご参加いただいております。

1. 診断・検査・治療などでわからないこと、疑問に思ったことは、医師または看護師にお聞きください。
2. 医師からの説明は、患者さんだけでなく、できるだけご家族と一緒にお願いします。また、ご家族が別々の時間に来院し、それぞれ説明を求めることは控えてください。
3. 輸血や人工呼吸器の使用に関して、またドナーカードや宗教的なことなどで希望があれば医師や看護師にご相談ください。
4. 患者の誤認防止のため、その都度氏名の確認を行っております。できる限り自分から自分の氏名を名乗ってください。点滴ボトルや内服薬の袋などに自分の名前が書いてあるか、確認してください。輸血の際は、ご自分の血液型と合っているかどうか確認してください。

医療安全推進担当者会議

